



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2005. 11 月号

来年2月完成を目指し、天文展示の一部展示替えを準備中！

主な展示内容は、
『太陽と太陽系の惑星たち』

二階～三階の踊り場壁面に設置される太陽と太陽系のパネル展示です。太陽と惑星が、縮尺2700万分の1の大きさを表現されます。それでも太陽の直径は5.5メートルにもなります。太陽パネルにはビデオプロジェクターで、太陽表面に現れる黒点などの映像も投映されます。



『太陽は今』

三階展示西側壁面には、屋上の太陽望遠鏡で撮像した太陽像、インターネットで接続した世界の天文台の太陽情報などが大画面モニターで表示されます。

また、展示中のいん石コレクションの充実を図り、いん石の分類上少ない、月、火星隕石、エイコンドライトを補充展示できるようにする予定です。

来年2月上旬に新装される新天文展示にご期待ください。

カクテルされた砂

■砂と石ころの行方

砂は、どこから生まれ、どのようにして運ばれて、海岸を作っているのでしょうか。砂粒は何からできているのでしょうか。石ころと砂はどんな関係にあるのでしょうか。

山北町谷峨の酒匂川に、御殿場方面から流れる鮎沢川と、西丹沢から流れる河内川との合流点があります。この河原を見ると、鮎沢川の河原は真っ黒な富士溶岩ばかり目立つのに対し、河内川の河原はごま塩状のミカゲ石（トータル岩という）と、緑色をしたグリーンタフからなります。その下流の谷峨駅付近では、それがミックスされて、様々な石ころを見るのに最適です。河原に見られる石ころ（礫）は、山が隆起することにより浸食され、上流から下流へ運ばれ、海へ達します。酒匂川や相模川は河口まで礫を運び、特に酒匂川は、相模川よりも急勾配のため、大きな礫を多量に海まで運びます。そして、酒匂川河口に達した礫は相模湾岸の沿岸流によって、東へ平塚方面へと運ばれていきます。国府津海岸では礫浜ですが、二宮付近からは砂浜となります。

■カクテルされた砂

砂は、上流に露出する岩石が削られて作られたり、地表が風化して生じたり、火山からの噴出物が空から降ってきたりして生まれます。したがって、川の上流に分布する岩石の壊れた岩石片からなる砂が大部分を占めますが、花崗岩の壊れた結晶ばかりの砂、火山灰から洗われた結晶からなる砂もあります。

相模川流域・酒匂川流域の砂は、大きく5つの供給源を持っています。それは、A丹沢山地のグリーンタフ砂・B小仏山地の頁岩砂・C富士の溶岩砂・D西丹沢の花崗岩砂・E箱根火山の火山灰の砂です。これらの5つの供給源を持つ砂が、下流に行くにつれて、その場所独自の割合でブレンドされ、現在河原で見る砂になります。したがって、砂はいくつかの原酒をブレンドしたカクテルと言うことになります。

そのブレンドの割合は、河原の石ころの組成と同じと思われがちですが、そうでもありません。相模川では小仏山地の頁岩は破碎されやすく礫には少ないものの、砂には多量に含まれています。酒匂川では、弥生時代に流れた富士山からの泥流が河口まで達しているため、河原の砂には富士溶岩の砂が極めて多く見られます。

■果てしない旅路

こうした砂は、河口に達し、沿岸に運ばれると共に、荒天の時には相模湾底に運ばれます。相模湾は、駿河湾・富山湾と共に水深1000mに達する深海を持っています。酒匂川・相模川から運ばれた堆積物は一気に深海へ運ばれ、相模トラフという海盆に堆積します。この相模トラフは、2つのプレート境界であり、南のフィリピン海プレートが沈み込んでいる場所です。そのため、相模トラフに堆積した堆積物は、プレート境界で本州側に押しつけられて、海底の高まり（海丘）となっていきます。大磯丘陵や三浦半島は、かつて深海底であったところが、本州側に押しつけられて、陸域になったものです。したがって、山から運ばれた砂は深海に達し、そしてまた山へ戻っていくこととなります。丹沢山地や関東山地はもともと海底で生まれたものであるため、海で生まれ、山になり、また海へ戻るともいえます。普段見慣れた砂も、そんな果てしない旅路を繰り返していることとなります。

（森 慎一）



☆ 職員の紹介 ☆

10月1日の人事異動で博物館に来られた職員と1日付けで採用された新人職員を紹介致します。やっと、管理担当と学芸担当の職員がそろいました。今年も残り少なくなりましたが、職員一同頑張りますので、宜しくお願い申し上げます。



管理担当の石森主管（左）と管理担当長の重田館長代理（右）

■はじめまして、10月から平塚市博物館で管理を担当することになりました重田と申します。管理担当の仕事とは、博物館の毎日が支障なく動いていくように、そして、多くの方々に来館していただき、気持ちよく、安全に、喜んでいただけるよう注意していく仕事です。

当博物館は、全国的に有名な学芸員が（知る人ぞ知る）沢山居りますので、コンビを組みながら今後とも情報発信の場として皆様に御利用していただけるよう微力ながら努力して往きたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。（重田政弘）

■管理担当の石森と申します。博物館が市民の皆様の教養を高める場や、憩いの場であるよう設備を提供していきたいと思っています。

プラネタリウムは星座の勉強になりますが、疲れた体や心を癒してくれる効果もあります。星空の下に流れるBGMや、学芸員の星座に関する神話を混ぜながらの説明などホットステーションです。ご家族で遊びにお越しくださいね。

また、館内には、三溪園にある春草廬（茶室）の写しがあります。これは、織田有楽作と言われており、三畳台目で一般に貸し出しもしております。

皆様のご来館を心よりお待ちしております。

（石森孝子）

■はじめまして。10月から博物館で働いています、新人学芸員の松本です。学生時代は無脊椎動物の分類を専門に研究してきました。浜口館長が開館当初より担当してきた生物分野を引き継いで担当していきます。平塚市に住むのは今回が初めてなのですが、海、川、山と恵まれた自然に囲まれているので、これからいろいろなところを見ていくのがとても楽しみです。

生き物は肉眼で見える世界が半分、顕微鏡で見える世界が半分です。肉眼では見えない小さな世界を、みなさんに紹介していきたいと思っています。顕微鏡、と聞くと、難しそうだ、とか、大変そうだ、と感じる方もいらっしゃると思うのですが、そんなことはありません。一緒に調べて勉強してくれる方、大募集です。もちろん、これまで博物館が主催してきた「漂着物を拾う会」や「水辺の楽校」も引き続き活動していきます。みなさん、どんどん博物館に来てください。お会いできるのを楽しみにしています。

（松本典子）



生物担当の松本学芸員

博物館カレンダー

2005年11月の行事

11	2	水	☆	寄贈品コーナー 地質(~/29)	展示室
11	3	木	○	連続講座「相模川流域のなりたち」	講堂
11	4	金	◎	星を見る会「火星」 古文書講読会	屋上・科学室 講堂
11	5	土	◎ ○	考古学入門講座 野外観察会「石ころのふるさとを探る」	講堂 屋外
11	6	日	◎	水辺の楽校生きもの調べの会 民俗探訪会	水辺の楽校 金田・岡崎
11	8	火	○	連続講座「相模川流域のなりたち」	講堂
11	10	木	○	展示解説ボランティアの会 石仏を調べる会	講堂 岡崎
11	11	金	◎	星を見る会「火星」 古文書講読会	屋上・科学室 講堂
11	12	土	◎ ◎	漂着物を拾う会 文化公園ツアー	虹ヶ浜 文化公園
11	13	日		古代遺跡を探す会 地質調査会 特別展展示解説	野外 科学室 特研室
11	16	水		裏打ちの会 平塚社寺調査会	科学室 特研室
11	17	木	○ ○	連続講座「相模川流域のなりたち」 アクアマリン十六夜(いざよい) コンサート	講堂 プラネ室
11	18	金	◎	星を見る会「火星」 古文書講読会	屋上・科学室 講堂
11	19	土	◎	考古学入門講座 相模川の生い立ちを探る会	講堂 野外
11	20	日	◎ ○	ろばたばなし コケの観察会	展示室 文化公園
11	24	木		展示解説ボランティアの会 石仏を調べる会	講堂 特研室
11	25	金	◎	星を見る会「火星」 古文書講読会	屋上・科学室 講堂
11	26	土		空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ 星まつりを調べる会	特研室 講堂 野外
11	27	日	○	地質調査会 プラネタリウムで宇宙を学ぶ会	野外 プラネ室

〈11月の展示とプラネタリウム〉

☆秋期特別展「大地をめぐる石の旅—海から山へ・そして海へ旅—」

会期：～11月20日(日)
会場：平塚市博物館 特別展示室 入場無料
休館日：毎週月曜日
館時間：9時～17時(但し金曜日は9時～19時)

◇特別展展示解説

日時：11月13日(日) 13時～14時
場所：博物館特別展示室 当館学芸員担当

☆寄贈品コーナー「相模川の生い立ちを探る会の活動」

期間：11月2日(水)～29日(日)まで

☆プラネタリウム

◎「火星接近！」

投影日：～11月27日(日)の土・日の午前11時と午後2時
観覧料：100円(中学生以下無料)

◎「11月の天文現象」

投影日：11月5日(土)午後2時
観覧料：100円(中学生以下無料)

◎プラネタリウムで宇宙を学ぶ会「星の若さって？」

日時：11月27日(日)午後3時30分～午後4時30分
参加：自由参加(小学校高学年以上)
場所：プラネタリウム

◎アクアマリン十六夜(いざよい)コンサート

十六夜の月の昇るころ、プラネタリウムの星空のもと、アクアマリンの歌とともにすごしませんか。
日時：11月17日(木)午後6時～7時

2005年12月の行事

12	1	木	○ ☆	展示解説ボランティアの会 寄贈品コーナー「湘南新道遺跡群」(~/12/25)	特研室 展示室
12	2	金		古文書講読会	講堂
12	3	土	☆	相模川の生い立ちを探る会 プラネタリウム「2006年の天文現象」(~/2/5) 天体観察会「天体写真」	野外 プラネ室 月光天文台
12	4	日	◎	水辺の楽校生きもの調べの会 民俗探訪会 天体観察会「天体写真」	水辺の楽校 伊勢原市 月光天文台
12	8	木		石仏を調べる会 湘南コケの会	特研室 野外
12	9	金		古文書講読会	講堂
12	10	土	◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
12	11	日		古代遺跡を探す会	野外
12	15	木	○	展示解説ボランティアの会	特研室
12	17	土		地質調査会 星まつりを調べる会	科学室 特研室
12	18	日	◎ ○	ろばたばなし 体験学習「お飾りづくり」	展示室 講堂
12	21	水		裏打ちの会 平塚社寺調査会	科学室 特研室
12	22	木		植物誌調査会	野外
12	24	土	○	自然の新聞を作る会 空襲と戦災を記録する会 地域史研究入門ゼミ	野外 特研室 特研室
12	25	日		地質調査会	野外

☆：展示(無料)、プラネタリウム(観覧料)、○：申込制、◎：自由参加、無印：年間会員制

会場：博物館プラネタリウム室

申込み：11月1日から電話(0463-33-5111)で受け付けます。(定員70人)無料

<参加者募集>

◎星を見る会

2年ぶりに接近した火星を望遠鏡で観察します。

日時：11月4日(金)・11日(金)・18日(金)・25日(金)19時～20時30分

場所：博物館科学教室・屋上

雨天曇天時中止

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えます。

日時：11月12日(土)午前9時30分～11時

場所：平塚虹ヶ浜海岸

参加：自由(初めてのの方は往復はがきで申し込むこと)

◎文化公園ツアー

文化公園内で見られるの動植物の観察や石造物等を解説します。

日時：11月12日(土)午前7時～8時30分

集合：文化公園

◎コケの観察会

身近なコケの種類や観察の方法を学びます。

日時：11月20日(日)午前9時30分～午後3時

場所：博物館周辺

指導：湘南コケの会

定員：20名

申込：11月8日までに、往復葉書で。

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日時：11月20日(日)(1)午後1時20分～(2)午後3時～

場所：展示室民家

◎入門考古学講座

今年度のテーマは「集落」

日時：11月5日(土)・19日(土)の午後2～4時

場所：博物館講堂

参加：自由参加

あなたと博物館 31巻8号 通算347号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail: muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/